

彦根仏壇

【産地組合】彦根仏壇事業協同組合

（産地紹介）

江戸時代中期に彦根藩では、高度な技術を持つ武具師・塗師（ぬし）・細工師に、武具の製作を辞めて仏壇の製造に携わるように勧めたため、その頃から小規模な家内工業として仏壇作りが始まりました。

その後、仏教が広まったことと、彦根藩が仏壇作りを保護したことによって、彦根仏壇の産地としての体制が整い、現在の発展の基礎となりました。

彦根仏壇は豪華で荘厳な雰囲気を持つ大型仏壇ですが、小型の仏壇であっても決して窮屈な感じを与えないのが特徴です。また、日常の使用に便利のように細かく工夫が施され、必要な道具、付属品の収納を考え、文書箱や台が一体となっています。仏壇前面の木目を浮き出させる、木目出し塗りや蒔絵を多用するなどが特色とされています。



（トピック）

- ・ 最近の取り組みとして、仏壇の横や隙間に置くことができる「合収壇」や、ミニ仏壇の「六華壇」という現代の洋風住宅向けのコンパクトな寸法の仏壇を開発しています。